

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた環境の中で、地域社会との交流を大切にし、利用者一人一人が社会性を維持できるグループホームをめざします。</p>	<p>○</p> <p>当事業所に関わる全ての方に折に触れ、理念の理解と共有が出来るよう努めたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>地域支援の活用をするための具体的な支援方法を全職員で模索し、実践に向け取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には訪問時や行事の際、理念を理解して頂けるよう努めている。地域住民の代表の方にも運営推進会議の際、理念を理解して頂けるよう努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所の立地条件上、近くに民家が無く、いつでも気軽に付き合いを行うのは難しい状況ではあるが、近隣のコミュニティーセンターで催し物がある際は参加している。又、最近では保育園との交流も持っており、園児と利用者のふれあいがある。</p>	<p>利用者が地域を担う一員として参加・活躍できる場所を広げられるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員が意義を理解し改善に取り組んでいる。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、サービス状況を開示し不明瞭な所があれば、なんでも聞いて頂けるようにしている。又、双方向的な会話ができるように努め、助言・意見をサービスの向上に生かしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議での話し合いの他に、事業所内で運営等で不明な点などあれば、都度相談している。推進会議依頼書提出の際に前回会議録を同封し、課題・現状等を知って頂けるように努めている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護・成年後見制度の必要性がある場合、主に管理者が関係者と話し合う機会を設けている。必要性に応じ、職員にも都度口頭や資料にて制度の説明を行っている。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の資料を作成しており、全職員が目を通し、虐待の種類の把握・防止に努めている。虐待は行われていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同一法人内での異動や離職で止むをえない場合があるが、可能な限り、早い段階で利用者へ報告・紹介するようにしている。新しい職員には、利用者からホームのことを教えてもらうよう指導している。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはできるだけ参加するよう努めている。参加した職員は朝の申し送り前に簡潔に報告し又資料は一定の場所に全職員が手に取れるようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同地区のグループホーム総会や研修会にて他事業所との交流を持つ機会あり。同一法人のグループホームで勉強会を開催したり、老人保健施設での研修会に参加や行事ごとにボランティアとして協力しあいながら相互の交流が成されている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の表情や動作に目を向け、職員の悩みやストレスの把握・軽減に努めている。休憩室は確保されている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>業務への考え方や内容が曖昧にならないよう話し合う機会を設け、一緒に問題解決に取り組み、各自が向上心を持てるよう勤めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまで、本人と面談を行い生活状態の把握に努め、又、本人、家族から希望を聴き入れ、入居の段階で相互間にズレが生じないように留意している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>一方的な考えを押しつけることはせず、どのように過ごして行きたいか本人、家族の思いを聴き入れ話し合いをした上で、支援への方向性を決定している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には必ず利用者本人と面談の機会を設けている。急ぎの利用の場合は、入居されてから早期の段階で利用者の生活歴などの把握に努め、それを関係作りに活かしている。</p>	
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>必要な場面でさりげなく手助けすることを心掛け、生活の中で利用者に助言・意見を頂いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>25 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の少しの変化でも家族に報告・相談し、共にその後のケア方針を決定するようにしている。</p>		
<p>26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>過剰な介入は避けつつ、円満な関係を築けるよう働きかけ、月1度、状態報告を含めたお便りを郵送し、面会がなかなかできない家族にも現状を知って頂けるよう努めている。</p>		
<p>27 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人・場所との関係性を継続できるようプランにも反映し働きかけている。</p>		
<p>28 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士が円満な関係を築けるよう、日々の言動を観察し、性格や相性の違いで上手く関係を築けない場合は、悪化させないよう職員が中に入り支援している。</p>		
<p>29 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他の事業所に移られた方には、こちらから遊びに行ったり、又、行事への参加の声かけや招待する等、関係を断ち切らないようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向に対しアセスメントし把握することに努めているが、困難な時は家族からの情報や家族と話し合い利用者本位の意向を追求するようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者自身からの聴取や家族、知人からの情報を得て、プランに反映し、支援していくよう努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>思いや生活スタイルが個々に相違あることを踏まえ、無理強いを避け、画一的なケアにならないよう注意している。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや生活歴を軸にし、家族の思いや職員の気付きからも反映し、利用者がより良い生活を送れる介護計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度の介護計画のモニタリングを実施し、又、状態や変化に応じ随時見直しをしている。家族の方に計画の説明をし、了承を得た上でサービスを提供している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の状態に応じ、状態観察チェック表作成、活用し状態把握に努めている。経過観察記録は詳細に記録するようにケアの実践や介護計画見直しに反映できるように行っている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況に応じて、通院送迎等必要な支援を行っている。利用者入院時は、病院と密に連絡を取り合い情報交換・状況確認をし、早期退院、再入居の支援に努めている。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>主に運営会議にて、警察・民生委員・近隣の町内会長と意見の交換を行っている。</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じ、同一法人の在宅介護支援センターの支援相談員に助言を頂くなどし、事業所内で抱え込まないようにしている。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在、地域包括支援センターとの協働には至っていない。</p>	○	<p>利用者の意向や必要性に応じ協働していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、事業所の協力医がかかりつけ医であるが、希望により利用前からのかかりつけ医での受診も行っている。職員が付き添い、送迎を行い、家族への報告も都度行っている。	○	必要に応じ家族同伴のもと受診し、直接、医師から状態の報告を受けている。
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師へ相談し、アドバイスを受け支援している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がホームに訪れ、利用者の体調管理や把握に努められている。又、同一敷地内の老人保健施設の看護師に、相談・助言を得て支援している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、今までの生活ができるよう情報を提供し、又、早期退院に向け、病院の医師・看護師と連絡を取り合っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で本人、家族と話し合う機会を持ち、かかりつけ医の意見を取り入れながら、事業所が対応し得るケアを踏まえた上で、利用者にとって、最良の選択ができるようつとめている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態変化の都度、予測される危険性の説明はされている。すべての利用者・家族に終末期の話をするまでは至っていない。	○	事業所のできること、できないことを説明し、終末期ケアに対して全ての家族に知って頂ける必要性がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の行動の特徴、性格、ケアの方法を次関係者に十分説明し、利用者にダメージを与えないよう留意している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の尊厳の保持・敬いの気持ちを念頭に、日々、対応している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	押し付けのケアは絶対しないようにし、思いや希望を上手く伝えられない利用者に対し、表情や口調から何を望んでいるか読み取るようにしている。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活スタイルに合わせ、柔軟に対応するよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向に任せている。自己決定しにくい利用者には、職員と一緒に考えアドバイスを送りながら、その人らしさが引き出せるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者間で役割が決まっており、それぞれ自主的に 行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	嗜好品について、制限はしていないが、病気や体調に 応じ影響を及ぼす恐れがある際は、本人に説明し、控 えて頂いている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を第一に考え、排泄リズムを考慮しな がらトイレ誘導したり、声掛けしている。それでも、失敗 ある際は、パットを使用し、必要に応じ、交換の介助 し、失禁による気持ちの落ち込み・不快感を取り除け るように努めている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間が決まっている。清拭や足浴は訴え時、必 要時行っている。	○	業務の見直し、安全面を確保したうえで、希望に沿え るよう検討していく。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	日中の活動を促している。なかなか寝つけない利用者 には、入眠前に温かい飲み物を提供し、談話したり、 時には足浴にてリラックスできるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴に沿い、得意分野で力を発揮して 頂くことで、生活に張りが持てるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持したい、家族が所持させたい場合、双方合意の上で金銭を所持して頂いている。買い物の際は、利用者本人に会計をして頂く等して、社会性の維持に努めている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望は、極力支援している。また、職員が自発的に誘い、ドライブ・屋外散歩も行っている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	それぞれの行きたい場所に連れて行きたい想いはあるものの、遠方となると勤務体制の都合上困難で、実現できていないが、年に1回、家族同伴の遠足は行っている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、又はこちらで必要性があると考えられる場合、電話や手紙の支援を行っている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けてはいるものの、必要であればいつでも来て頂いて構わない事を、家族・面会者に伝えている。職員も面会者への過剰な気使いには注意している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を設置し、拘束とは何か・拘束する事で起こりうるリスクの徹底に努め、現場でその都度確認を行い、拘束しないようケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠する事で起こりうるリスクを理解したうえで、日中は鍵をかけていないが、夜は安全面・防犯面から施錠している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、記録等の作業を行う場合は、ユニットの廊下・居室を見渡せる場所に職員位置する事で利用者の行動の確認・観察をしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の方が大切にしている物であれば、危険だからといって、無闇に取り上げるような事はしていない。が、状態の変化・取り扱いの様子・他者から見て危険を感じるようであれば、本人・家族に了解を得た上で保管し、必要時、見守りのうえで使用してもらっている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアル・資料を設置しているが、一概にそれに頼らず、利用者個々の状態の把握をする事で、予測される危険の未然の防止に努めている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急、急変時のマニュアルと緊急連絡網を設置し、事故発生時の対応に取り組んでいる。又、そのような場合にも慌てず、一人に対応しないように職員に徹底している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、避難訓練・消火器の使い方の説明会を年2回行っている。経路も確保している。	○	区域内の消防団に来訪して頂き、ホームの構造・避難経路等の説明をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況変化時、都度起こり得るリスクを家族に説明している。事故を恐れ動きを制限する事が、更なる障害をもたらす事、尊厳を脅かす事を説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの異変でも過信せずバイタル測定を行い、状態に応じて早めの病院受診を行っている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の注意書をカルテに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。申し送り・カルテ記録を細かく行う事で、全職員が個々の状態把握に努め、病院受診の際、事業所と医師との見解にズレが生じないように留意している。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を訴える利用者に、安易に下剤の服用等を勧めず、日常の動きを多くしたり、食事・水分を適正に摂る事で排便につながることを説明し、又無理なく活動できるように職員も配慮している。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを怠る事で起こり得るリスクを利用者に説明し、必要性を理解していただくよう努めている。自力で行っている方でも不十分であれば介助を行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好み・嚥下・咀嚼能力などを考慮し、無理の無い食事・水分摂取が出来るよう心掛けている。栄養士にもアドバイスを頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、感染症の予防・症状などを学んでいる。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は長期保存せず、短期使い切りとしている。台所用品の除菌・殺菌も毎日のように行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に花や木を植え、親しみやすい雰囲気を作っている。ベンチも設置している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアと台所は密接しており、食材を切る音・茶碗を洗う音・料理のにおいを身近に感じられる。カーテンも遮光・レースと2種類使い分けたり、トイレの戸はアコーディオン式を使用し、開閉しやすいようにするなどし、配慮がなされている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローリングのフロアの他に、畳間を設けている。畳間には膝を折る事が困難な利用者の事も考え、ソファも設けている。廊下にもソファを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内の物品のレイアウト・位置取りは、利用者の使いやすさや希望を考慮しながら、一緒に決めている。家族の希望も取り入れている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室に換気扇を設置している。空気の入替えも天候を見て、適宜に行っている、暖房は床暖房で、外気温に合わせ、都度温度調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ・浴室など生活の主体となる場所に、手すりを取り付けている。浴室手すりにはすべり止めを取り付けている。椅子も利用者の座位保持能力に応じて、使い分けている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>事業所内の備品等の配置変えで、混乱や失敗を招いた際、その都度話し合い、繰り返さないように工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に作物や花を植え、利用者が鑑賞・収穫できるつくりになっている。外にはベンチの他、パラソルもあり無理なく外の景観を楽しめる。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)